

北京師範大学との学術交流活動2011

1. 概要

京都大学大学院教育学研究科と北京師範大学教育学部（2009年より教育学院から改組・改称）は、2006年6月5日に学術交流協定を締結して以来、研究・教育の二つの方向で、実質のともなう交流活動を行ってきた。

2. 沿革

両大学は2006・2007・2008年に北京・京都で「合同国際シンポジウム」を開催したほか、毎年交互に教員が訪問して集中講義も実施してきたが、北京師範大学の教育学院を中心として再編された「教育学部」の設立に伴い、2010年12月14日には、学術交流協定が更新・再調印され、それまでの蓄積を踏まえつつも更なる発展に向けた新たな段階の学術交流が開始された。具体的には、2010年度は、本研究科・高見茂教授が北京師範大学を訪問して集中講義を実施した一方で、北京師範大学から博士課程大学院生が来日し、京都大学大学院教育学研究科大学院生と、京都大学楽友会館において、「日中教育学・大学院生交流会」を開催した。

3. 今年度の活動と今後の展望

2011年度は、学術交流協定の合意事項を受けて、北京師範大学教育学部・高益民副教授による京都大学での集中講義（国際教育研究フロンティア：別途報告）と、北京師範大学での院生同士による交流会が実施された。



▶李家永副部長による歓迎と開会の言葉

「北师大－日本京都大学研究生论坛」（北京師範大学－京都大学大学院生学術交流）と題された今回の院生交流会は、二つの分科会に分かれて11月4日に開催された。11月3日～6日の日程で訪中した京都大学の院生9名（南部准教授・吉田助教・小林研究員が同行）と、北京師範大学の院生9名の計18名が、それぞれの研究分野について発表を行った。英語でのプレゼンテーションに続いて双方から質疑応答が行われ、日中の教育をめぐる共通の課題や相違点について意見

が交わされた。特に今回は、発表全体に共通するテーマとして「教育の国際化：その各国教育政策や教育活動への影響」が設定されたため、参加者たちにとっては、多様な隣接領域の院生と幅広く関心を寄せあい、お互いの研究水準を高めあう貴重な機会となった。本交流会は、日中の院生が連絡を取りあいながら主体的に企画・運営を担当するところに特徴があり、3日の歓迎会や4日の晩餐会などを通じて、相互の信頼醸成や異文化理解、協働を深めていったことも特筆すべき点である。



▶分科会での議論の様子(左右)と晩餐会後の記念撮影(下)

晩餐会の席上、北京師範大学教育学部の石中英新部長が挨拶された折には、これまでの交流に伴う協力関係の総括だけでなく、やがては学位取得後に院生が教員として着任しあうことさえ不思議でなくなるほど交流が進展していくという、今後の展望に対する期待まで表明された。

3日には、李家永副部長と南部准教授を中心に教員レベルの人材交流に関する意見交換も行われ、集中講義の日程拡張や単位関連の整備拡充などについて検討していくことが確認された。新たに交流協定を結んだソウル大学も交えて日中韓による交流活動へと発展していく可能性も含め、教員・院生の学術水準の向上に向けた更なる胎動が始まっている。



▶晩餐会での石中英部長(左)と南部広孝准教授(右)

(文責：小林 伸行)